

令和2年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

海津市地域公共交通会議

平成25年12月5日設置

フィーダー系統（デマンド交通）

令和2年6月23日 確保維持計画策定

直近の二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
①通勤・通学・買い物の広域的な需要が見られるので、 今後は関係市町や地域の関係者とより密に連携されるよう期待	公共交通の多面的な利用実態の分析を行い、現計画に路線網の再構築の実施を位置付け、来年度実施予定	隣接する羽島市・輪之内町と連携して、需要に応じた路線への再構築を目指す
②海津明誠高校への通学利用については、基礎となるデータの共有や路線のあり方等について輪之内町と協議されるように期待	海津明誠高校への通学利用に対する路線のあり方について、当市と輪之内町とで現状について意見交換会を実施	海津明誠高校への通学の利便性の向上に向け、輪之内町との協議を重ねることにより、今後の路線のあり方について検討していく
③調査結果を踏まえ、持続可能な地域公共交通サービスを実現するための計画策定を期待	岐阜県内他市町との連携に加え、愛知県・三重県他市への連携のための協議を現計画に位置付け	養老線交通圏地域公共交通網形成計画と整合を図りつつ、隣接の羽島市・輪之内町・養老町とも連携しながら、地域住民と協働して仕組みを検討していく

地域の特性・概要・公共交通の取り組みの背景

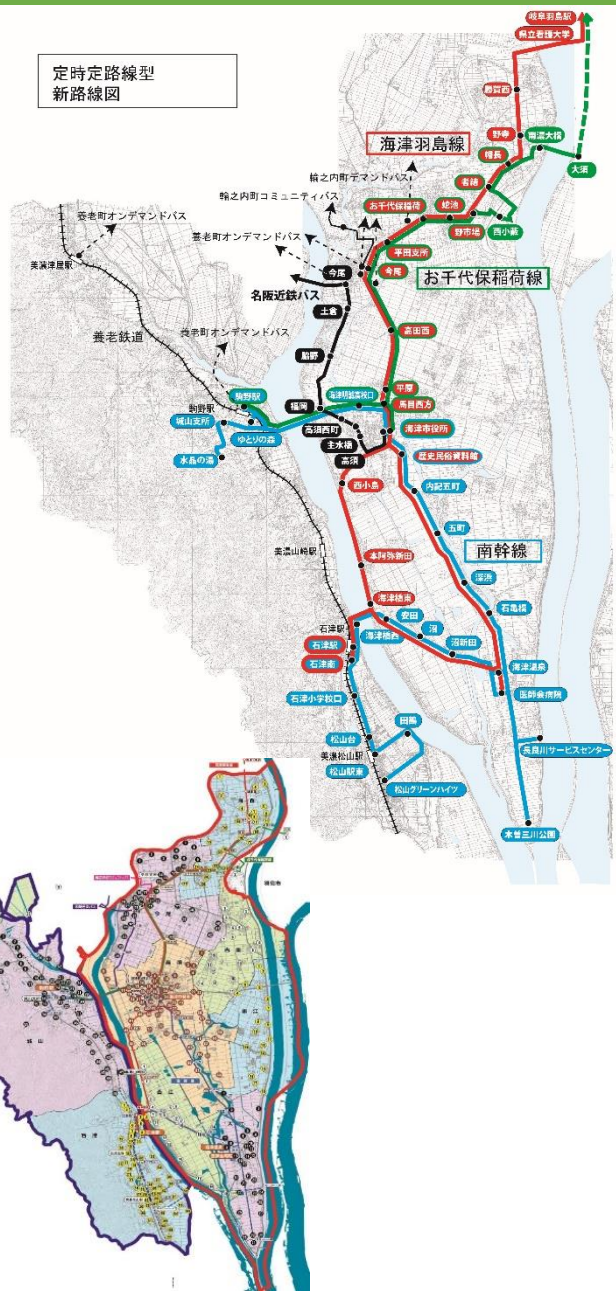
- 市内の公共交通は、養老鉄道、名阪近鉄バス、市コミュニティバス、タクシーで構成。コミュニティバスは、従来の8路線から**定時定路線3路線+デマンド交通に再構築**（平成27年10月～）
- 養老線鉄道事業再構築実施計画の認定
平成29年12月21日認可
期間：平成30年1月1日～令和9年3月31日
- 養老線地域公共交通網形成計画策定
平成29年10月24日作成
期間：平成29年度～令和8年度（10年）

海津市地域公共交通網形成計画の概要

将来像 『みんなでつくる、便利な公共交通網』

- 基本方針
- ①持続可能性を考慮した公共交通網の構築
 - ②関係者の協働による公共交通網の構築
 - ③住民が主体的に参画するための仕組みの構築

計画期間 令和2年度～令和8年度

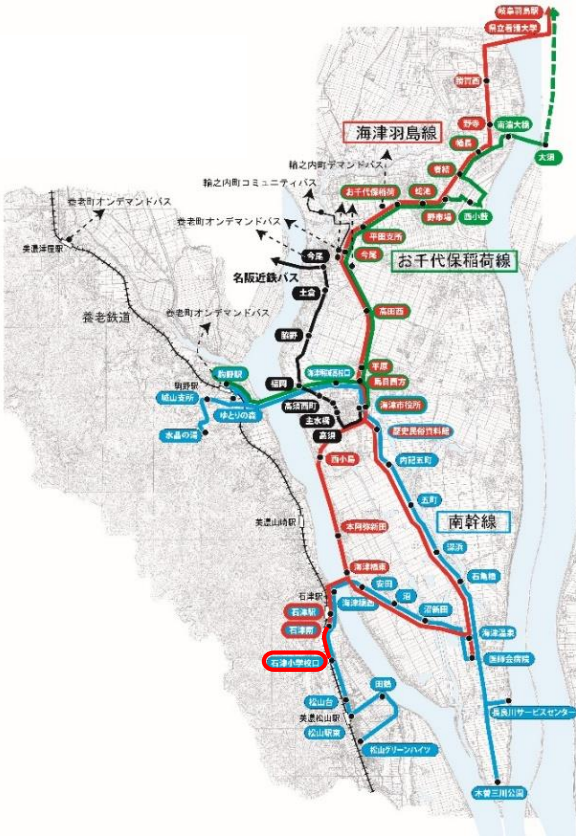


サービス改善事業

- ①利用実態、利用者ニーズに対応してダイヤを改正
 - 東海道新幹線、名鉄羽島線のダイヤに合わせて対応
- ②自治会要望への対応
 - デマンド交通停留所の移設要望への対応

利用促進事業

- ①海津市公共交通利用ガイドの作成 (令和2年10月改正)
 - 5,000部作成、駅や公共施設等でも配布(下図参照)
 - 市内全ての公共交通(鉄道・路線バス)の時刻表の掲載
 - 今後も改正に合わせて継続して発行予定



- ②経路検索サイトへのデータ提供
 - NAVITIMEへコミュニティバスの情報 (時刻表やバス停位置) を提供し、スマートフォン等の情報機器から乗換検索サービスに対応
 - 市コミュニティバスデータのGTFS化を実施し、オープンデータとし、Google マップ・駅すぱあと for WEB ・Yahoo!JAPAN 路線情報 などで検索が可能
 - 今後も情報提供を拡大予定

生活交通確保維持改善計画における数値目標

評価の考え方 ■生活交通確保維持改善計画策定時の地域公共交通網形成計画(前計画)の評価指標の1つである「**デマンド交通の利用者数**」を評価指標として設定

	目標 (R2年度)	R 1 年度	R2年度	増減	評価
コミバス 利用者数	100,055人	96,604人	77,754人	▲18,850人	未達成
デマンド交通	20,000人	20,190人	17,574人	▲2,616人	—
定時定路線	—	76,414人	60,180人	▲16,234人	
海津羽島線	—	43,812人	36,704人	▲7,108人	—
南幹線	—	28,420人	19,401人	▲9,019人	—
お千代保稲荷線	—	4,182人	4,075人	▲107人	—

目標達成状況に関する考察

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴う外出自粛や学校の一斉休校の影響で、各路線とも利用者が大きく減少

デマンド交通

- ・海津温泉の一時休館や、水晶の湯の休館に伴い、利用者数が減少したと考えられる。
- ・昨年度からの利用者数の減少率が、定時定路線バスの21%減に対し、13%減と小さいことから、コロナ禍においても日常生活に必要な移動手段として利用されていることが伺える。

定時定路線

- ・海津明誠高校の生徒数減少に伴う利用者の減少が大きいと考えられる。

海津市地域公共交通網形成計画における数値目標

①鉄道の利便性、効率性及び満足度向上

	目標 (R7年度)	R 1 年度	R2年度	増減	評価
養老鉄道 (市内乗降者数)	394,000人	450,885人	369,183人	▲81,702人	未達成
美濃松山	—	939人/日	791人/日	▲148人/日	—
石津★	—	495人/日	413人/日	▲82人/日	—
美濃山崎	—	174人/日	151人/日	▲23人/日	—
駒野★	—	1,143人/日	941人/日	▲202人/日	—
美濃津屋	—	315人/日	297人/日	▲18人/日	—

※1) 数値は平日のみの集計 ※2) ★はコミュニティバス接続駅

●養老鉄道の利用者数は、新型コロナウイルスの影響で目標を下回っているが、交通事業者が感染防止対策を実施していることをPRする等、公共交通利用に対する不安を払拭するとともに、今後利用の回復に努め、各事業を推進していく必要がある。

②住民が主体的に公共交通に係るための取組みの実施

	目標 (R7年度)	R 1 年度	R2年度	増減	評価
運転免許証自主返納 支援事業申請者数	80人	73人	84人	11人	達成

●運転免許証自主返納支援事業を継続して実施しており、着実に効果が発現している。

全体的な課題と対応方針

- 海津市役所を境とした**輸送量の大きな違い等**を踏まえ、名阪近鉄バスを含めた**海津市全体**の定時定路線バスの**公共交通網の再構築**を行う。その際は、市民ニーズを考慮し、養老鉄道等の鉄道路線や他市町（特に羽島市・輪之内町）との連携を含めた路線の再構築を併せて検討する
- 県外自治体（桑名市・愛西市等）と鉄道連絡輸送手段を協議する
- 高校生の通学利用の減少に対して、高校進学前からの情報提供、若年層向けの出前講座を実施し、**公共交通の認知度向上**を図る
- 定期以外の利用者の安定的な確保のため、お千代保稲荷等への観光需要の喚起を図るとともに、**経路検索サービスのさらなる拡充**を軸にした情報提供を図る
- 地域住民と**協働して積極的に移動手段の確保に参画**するための仕組みを構築する
- デマンド交通については、**福祉部局**との課題共有・連携した運行サービスの見直しを図る



『海津市が目指す公共交通網』